

柏市民活動ニュースレター

2021年4月発行 第20号

市民活動サポートコーナーが誕生して、 おかげさまで5周年！

- 2016年5月14日、パレット柏にオープンした市民活動サポートコーナーは、多くの市民の皆さんに支えられて、今年の5月で5周年の節目を迎えます。
- この5年間、市民活動の活性化や協働まちづくりの推進に役立てばと、試行錯誤をしながら様々な活動に取り組み、一定の成果を出すことができたのではないかと考えています。



- 残念ながらこの1年は、市民活動フェスタが中止になるなど、コロナ禍で思うように活動ができませんでしたが、2021年度にも歩みを止めることなく、新しい生活様式に対応した活動を、皆さんと一緒に続けていきたいと考えています。
- 4月からは、市民活動サポートコーナーに新しいスタッフを2人迎え、新体制でスタートしますので、引き続きよろしくお願い致します。
- 2016年7月に創刊したニュースレターも、本号が節目の20号になります。本号では、4月から始まる市の助成制度を活用した団体活動の紹介などを中心に編集しています。是非ご一読ください。

<目次>

はじめに	・・・1ページ
令和3年度 柏市民公益活動育成補助金の交付団体が決定	・・・2ページ
柏市民公益活動促進基金のしくみ について	・・・3ページ
柏市協働まちづくり提案制度に基づく第1号事業がスタート	・・・4ページ
協働のかしわ情報発信チーム・活動レポート	・・・5ページ
市民活動講座「SDGs×市民活動」	・・・6ページ
第4回 常磐線沿線地区市民活動センター等交流会 in 守谷	・・・7ページ
お知らせ	・・・8ページ

たまご 補助金

令和3年度 柏市民公益活動育成補助金 (たまご補助金) の交付団体が決定

令和3年度柏市民公益活動育成補助金(たまご補助金)の交付団体が決定しました。
この制度は、柏市が設立間もない団体に対し、自主的・自発的に活動するための財源支援を行うもので、補助金交付終了後も活動資金を集め、活動を継続していく団体を育成するための補助金です。
交付団体は、応募団体審査会にて【ニーズ性・公益性】【具体性・実効性】【発展性】【経費精算の適正性】という審査基準のもと、採択されました。

交付団体名	事業名
ママパパBOUSAIライフ	子育て世代への防災・減災知識の普及・啓発と情報共有
Kashiwa Prog-Science	地域におけるICTの学び推進事業
東葛北部認定栄養ケアステーション	地域住民への食生活支援活動・栄養ケア
あおむしCAFE	障がいをもつ親子への育児支援事業
ママのカラダケアLabo(ママLabo)	産前産後の方の保健・医療の増進を図る事業
北柏楽しいことやっちゃおうプロジェクト(きたかしYP)	北柏の「住んで楽しい!」を作ろう!プロジェクト2021
te_tte とねりこ	障がい児・者とその家族のサポート

Q. 制度の概要は?

1年で完了する事業に対する補助金です。(団体の維持、運営に関わる費用は補助対象となりません)
補助割合は補助対象経費の90%、補助上限額は20万円、
交付上限回数は2回までです。

Q. 応募資格は?

- ①市内に事務所があり、主として柏市で市民公益活動を行うこと、
- ②設立から3年未満であること、
- ③構成員が5名以上であること、
- ④柏市に市民公益活動団体登録をしていること など、定められています。

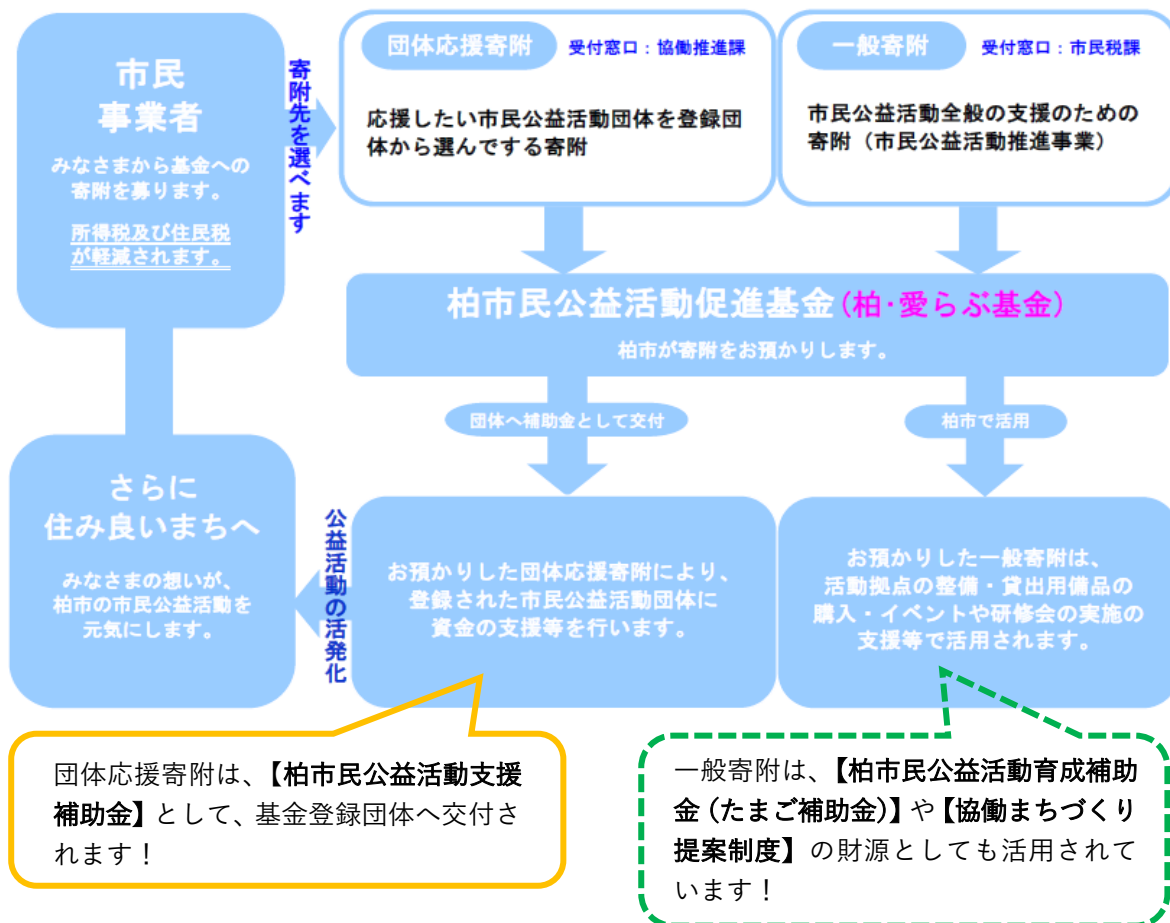


市民活動支援に関する補助金制度について、詳細は、市民活動サポートコーナーまでお問い合わせください。



柏市民公益活動促進基金のしくみについて

柏市民公益促進基金は、市民の皆さまの寄附で、
柏市の市民公益活動を支える制度です！



柏・愛らぶ基金は、「柏市をもっと良い街にしたい」「柏市に暮らす人たちをもっと幸せにしたい」など思いをもって活動している市民公益活動団体を、【寄附】という形で応援していただける制度・仕組みです。現在、基金団体登録をしている市民公益活動団体は25団体で、令和3年度は、そのうちの21団体が**団体応援寄附**を活用し、事業を行うことになりました（柏市民公益活動支援補助金の交付決定）。また、市民公益活動全般のための**一般寄附**は、柏市民公益活動育成補助金（たまご補助金※P.2）や協働まちづくり提案制度の財源としても活用されています。「柏市が、もっといい街になると良いな」そんな想いを、市民公益活動に託してみませんか？

柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）登録団体は、
柏市ホームページにて、団体情報の一覧がご覧いただけます。



柏市協働まちづくり提案制度に基づく 第1号事業がスタート

- 令和2年度から運用開始された「柏市協働まちづくり提案制度」に基づき、市民活動団体から5件の提案があり、市の事業担当課と協議・調整を重ねてきましたが、このうち下記の1件が成案化し、令和3年度から事業が始まりました。

《協働まちづくり提案制度 第1号事業の概要》

■協働事業体制

提案団体：柏観光プロダクション（市民公益活動団体）

事業担当課：都市部 住環境再生課

■事業名

『かしわマイ・フットパス推進事業』

■事業目的

- ① マイ・フットパスの普及による
柏市民のふるさと意識の醸成
- ② マイ・フットパスを起点にした
協働による新たなまちづくりの展開

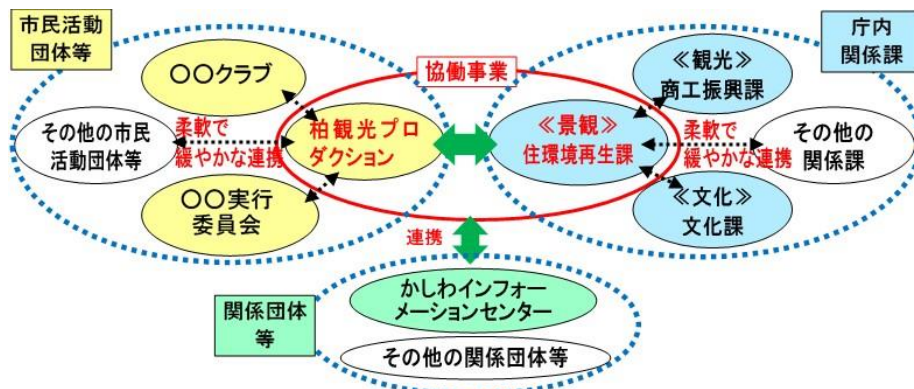
■事業内容

- ① フットパスに関する情報交換会の開催
- ② フットパス・ツアーの実施
- ③ ツアーノートの作成
- ④ 写真展などによる活動成果の発表

■事業推進体制

複数の市民活動団体と柏市の関係課で構成する情報交換会「かしわマイ・フットパス勉強会」を設置し、多様な主体による柔軟で緩やかな協働・連携体制で取り組む。

《かしわマイ・フットパス勉強会（情報交換会）》



- 本制度は、行政と市民公益活動団体が、それぞれの特長を生かし、協働・連携して地域課題の解決に向けたまちづくりに取り組む制度であり、皆様からの提案を、期限を定めず随時募集しています。



協働ってなあに？ 活動を聞きにいく

～協働のかしわ情報発信チーム・活動レポート～

【その1 NPO 法人下田の杜里山フォーラム NPO×保育園・学校】



昨年12月、酒井根地域の貴重な里山である下田の杜で、生物の環境保全、農作業、土地の歴史等を通しての地域交流や、学習機会の提供など幅広い活動を行っているNPO 法人下田の杜里山フォーラムを、下田の杜に訪ねました。

ご案内頂いたのは事務局の廣沢さん。当日は、船橋市にある東邦大学理学部の北田典子先生が教職を目指す大学生に対して「里山講座」を行うために10数名の学生さんたちと共においでになっていました。午前中は、里山の湧水の周囲に自生する外来種（トキワツユクサ）の除去と水生生物の同定などを行い、午後は講義があったそうです。

初めて下田の杜に来るとびっくりされると思いますが、杜の中に居ると、草木が茂り、水が湧き、田んぼがあって、至る所に虫や鳥がいて、とても森のすぐ向こう側に住宅地があり車の往来も頻繁な道路があるとは思えません。どんなに貴重な場所か、実感します。

そこには、昭和50年に「下田の杜の自然を守る会」を設立した地権者の斎藤さんの思い、それに応えた地域のみなさんの活動が市を動かした経緯、現在の下田の杜を都市緑地として市が管理業務の一部をNPOが担うに至る、半世紀近い活動の積み重ねがありました。

10日ほど日を置いて、酒井根西小学校で行うNPOの出前授業を拝見しました。5年生対象の「藁リースづくり」（総合的な学習の時間）で、NPO代表の貝山秀明さんのほか、会員の皆さん20名近くが参加されていました。生徒さんたちは下田の杜で一年間、田植えから始まり、稲刈り、脱穀も経験してきた最後の授業になるそうです。会員のみなさんの指導を受けながら藁リースを編む、子どもたちの輝く笑顔が印象的でした。

【協働のポイント】

今では、酒井根小、同西小、同東小、酒井根中、麗澤中、地元保育園などにも広がった学校との協働。そのきっかけは、ある熱心な先生がクラブ活動で下田の杜に訪れ、関係がづく内に野外学習などの授業にも取り入れられるようになった、ということです。その結果、NPOと学校の協働が、どんなに豊かな学びを子どもたちに提供していることでしょう。

また、下田の杜は「生きた博物館」だと言います。しかし、この貴重な里山の保全には課題もあります。市民により広く知ってもらい、より理解してもらうこと。地権者、柏市とも協働して、杜全体の持続的な保全をめざすこと。NPO代表・貝山さんの言葉には静かな熱がこもっていました。

（取材・レポート：情報発信チーム 所 英明、原田圭子）

◎協働の推進・情報発信チームは、市民団体の有志と柏市とで結成されたチームで、協働のまちづくりに関する様々なことを発信しています。

市民活動講座「SDGs×市民活動」

講師：SDGs 市民社会ネットワーク 理事 新田英理子さん

コロナ禍の中、今年度の市民活動講座はオンライン中心で開催してきましたが、1月30日（土）にパレット柏で、感染防止に注意しながら、久しぶりに対面型の講座を開催しました。

本テーマのSDGsに対する市民の関心が高く、17人の参加者が受講しました。

【第1部】講演「NPO・市民活動団体にとってのSDGs」

一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク理事・事務局長の新田英理子さんを講師に迎え、「NPO・市民活動団体にとってのSDGs」と題して講演していただきました。



《新田英理子さんのプロフィール》

東京の民間企業に勤務後、環境NPOなどを経て98年より日本NPOセンターに勤務。2017年からSDGs市民社会ネットワークと日本NPOセンターの兼任を経て現職。パートナーシップが最大限発揮されSDGsが達成されることを目指し活動中。



《講演のポイント》

SDGsにボランティア団体に関わる必要性？！

- これまでの活動の強みが、より社会に向けて活用できる
- 例えば、拠点を防災の拠点にして、電気自動車の供給地にするとか
- フードロス削減のモデルになるとか
- 参加型のごみ拾いと、学習支援とか、それ自身がサステナビリティのモデルとなる
- そのことで、地域から“投資先”（寄付先）としての拠点となる？！
- 自助、共助、公助の結節点として、社会へのアピールがしやすくなる
- SDGsの「社会」×「経済」×「環境」の不可分性をアピールできる？！

【第2部】柏市における活動事例

柏市には、その活動が、結果として「誰一人とり残さない」というSDGsの理念に通じる活動を行っている団体が少なくありません。

第2部では、次の2つの市民公益活動団体に、その活動を紹介していただきました。

① 絆：福島支援柏コットンプロジェクト

柏市内の休耕地を利用してオーガニック綿花を栽培することにより市内の緑化・環境整備に貢献し、あわせて収穫した綿花を福島県小名浜市のNPOに無償提供することにより震災復興に貢献している。

② 障がい理解推進チームWa's

障がいに対する理解を深めるためのイベント、講演会、研修会の開催及び冊子、パンフレットの発行を行っている。

【第3部】あなたの市民活動は？

第1部の講演と第2部の事例発表のあと、事前アンケートに基づいて、参加者の皆さんの市民活動について、講師への活発な質疑応答が行われました。

《講座担当者の感想》

地域レベルの小さな市民活動でも、多様で多彩な活動が「集合」し「協働・連携」することにより、SDGsの理念に通じる「誰一人とり残さない地域社会」の実現に一歩近づけるのではないかと感じました。

＜担当：及川愛二＞

『第4回 常磐線沿線地区市民活動センター等 交流会 in 守谷市』をオンラインで開催

<1> 開催概要

- 常磐線沿線地区の市民活動センター等が一堂に会して情報交換を行い、お互いの「良いトコロ」を学び合うことにより、各センターのノウハウやスキルの向上を目指すとともに、スタッフ同士の交流・親睦を図ることを目的に第4回目の交流会を開催しました。

■開催日時：2021年2月12日（金）
14時～16時30分

■開催方法：オンライン会議

■参加団体（7団体）

- 龍ヶ崎市市民活動センター
- つくば市市民活動センター
- 阿見町市民活動センター
- 柏市民活動サポートコーナー
- まつど市民活動サポートセンター
- 流山市民活動センター
- 守谷市民活動センター（幹事団体）

<2> オンライン交流会のプログラム

■各センター等の2020年度活動広告

■情報交換

- 3グループに分かれてディスカッション
A：コロナ禍でのセンターの役割について
B：60代の前後の人材勧誘する方法
C：市民活動を誘導するためのアプローチの仕方（講座や広報の仕方）

- ディスカッションの共有（グループ代表者による発表）
- フリートーク（その他の課題）
- オンラインアンケート
- 記念撮影

<3> 交流会のまとめと感想

- 各センターとも、この1年間、コロナ禍の中で運営に大苦戦しながらも、対面ではなくオンラインによる講座の開催など、様々な工夫をしながら、それでも歩みを止めず活動している様子が伝わりました。

- 未だコロナ終息の目途が立たず、今後も暫くはウィズコロナの時代が続くと思われます。また、いずれポストコロナの時代が来たとしても、オンラインを活用した今のスタイルが、今後の市民活動のスタンダードになるものと思われます。

- 市民活動センター等を取りまく環境が変わっても、私たちは、環境変化に対応しながら、その歩みを続けなければならないとの思いを強くしました。

<担当：及川愛二>



お知らせ

市民活動サポートコーナーは、4月から 新体制でスタートします！

市民活動サポートコーナーは、4月から、協働支援員2人（松清、鬼山）と地域づくりコーディネーター3人（及川、三好、宮崎）の5人体制で、皆さんの市民活動をサポートして参ります。

新スタッフが2人が加わりましたので、お見知りおきのほど、よろしくお願ひいたします。



なお、市民活動サポートコーナーは、令和3年4月より**毎週月曜日が休業日になります**。ご不便をお掛けしますが、ご協力をよろしくお願ひいたします。

★新スタッフ紹介★ ※左から3人目

4月から地域づくりコーディネーターになりました宮崎彩です。地域コミュニティイベントの柏市100人カイギの運営をしています。猫が好きで、動物愛護福祉の活動もしています。

市民活動を行う中での問題点を、一緒に解決できるようなサポートをしていきたいです。よろしくお願ひします。

★新スタッフ紹介★ ※左から2人目

三好玲子です。新スタッフではありませんが少し古めです。

サポートコーナーのカウンターやあちこちで、みなさんの夢が広がるお話が聞けるのを楽しみにしています。思いがよりよく形になるようなお手伝いができたら嬉しいです。

見かけたら声をかけてください。どうぞよろしくお願ひします。

★長い間、お疲れさまでした★ ※スタッフ一同より

ニュースレターに出稿させて頂いていた砂原成治です。このたび3月末をもって市民活動サポートコーナーを退くことになりました。

在任中は皆様方とお近づきになることが出来、市民団体の皆さんの情熱とその活動に勇気づけられる日々でした。また、皆様からのご指導とご厚情に感謝の気持ちで一杯です。心から厚く御礼申し上げます。

今後は一市民として市民活動を少しでも長く続け、どちらかでお会いすることが出来れば幸いです。



背景は自作の版画です！
（柏市民ギャラリーにて）

編集後記

2020年度は、コロナに明け、コロナに暮れた1年でした。ニュースレター20号には「コロナ禍」や「オンライン」といった文字が踊っています。市民活動団体の皆さんは思うように活動することができず、歯がゆい日々を送っていたのではないのでしょうか？

新年度を迎え、本号で紹介したように、新しい市民活動が力強く始まっています。まだ暫くはコロナ禍が収まりそうにありませんが、市民活動サポートコーナーは、今年度も皆さんの活動をサポートして参ります。

コロナに負けず、一緒に頑張りましょう！

